



Since 1962

日本音楽舞踊会議

The Conference of Music and Dance Japan

室内楽の夕べ

〜 深沢亮子と室内楽の仲間たち 〜



深沢 亮子 Klavier



恵藤 久美子 Violine



中村 静香 Viola



安田 謙一郎
Violoncello

助川敏弥

ちいさき いのちのために“Lacrimosa” 1999 (ピアノソロ)

A.Glasunov

ヴィオラとピアノのためのエレジー ト短調 作品 44

Élégie, für Viola und Klavier g-moll op.44

M.Bruch

ロマンス ヘ長調 作品 85

Romanze für Viola und Klavier F-Dur op.85

A.Dvořák

ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ ト長調 作品 100

Sonatine für Violine und Klavier G-Dur op.100

L.v.Beethoven

ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのための四重奏曲

変ホ長調 作品 16

Quartett für Klavier,Violine,Viola und Violoncello Es-Dur op.16

2016年 12月5日(月) 19時開演 (18時30分開場)

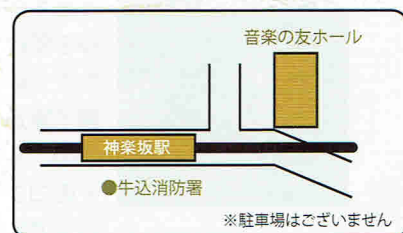
音楽の友ホール Tel: 03-3235-2115

全自由席: 4,500円



主催: 日本音楽舞踊会議 (The Conference of Music and Dance Japan)
季刊「音楽の世界」

お問い合わせ: 日本音楽舞踊会議 Tel/Fax 03-3369-7496
E-mail: info@cmdj1962.com http://www.cmdj1962.com



地下鉄東西線「神楽坂」駅 下車1分
都営大江戸線「牛込神楽坂」駅 下車5分

Designed by Migaku KITSUKAWA

●プロフィール



深沢亮子 (ピアノ)

12歳で全日本学生音楽コンクール第一位、文部大臣賞受賞。15歳で第22回日本音楽コンクール首位受賞。17歳でウィーン国立音楽大学に留学。1959年同校を首席卒業。翌年楽友協会プラームス・ザールにてデビューリサイタルを開催し絶賛される。1961年ジュネーブ国際音楽コンクール最高位入賞(1位なしの2位)以来、ヨーロッパや南米、アジアの主要都市でリサイタル、室内楽、オーケストラの共演等国际的な舞台で活躍(共演した指揮者はL.v マタチッチ、G.ヴァント、H.ヴァールベルク、小沢征爾ほか。オーケストラはN響、東響、N.Ö. トーンクンストラ管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団他。室内楽では新旧ウィーン八重奏団他)。日本の作品も内外に数多く紹介。1992年、国際交流基金により音楽文化使節として天満敦子女史(Vn)とルーマニア、チェコ、スロヴァキア、ブルガリアへ派遣される。国内では毎年、リサイタルを開催、2013年、デビュー60周年記念演奏会を行う。ウィーンのベートーヴェン国際ピアノ・コンクール、日本音楽コンクール他の審査員を務める。英国ケンブリッジ国際伝記センター(IBC)により「最も優秀な100人の音楽家」に選ばれる。著書、CD、楽譜の出版等多数。日本音楽舞踊会議代表理事、国際開発救援財団理事。1963年大阪府民劇場奨励賞、1995年千葉県文化功労賞。永井進、G.ヒンターホーファーの両氏に師事。



恵藤久美子 (ヴァイオリン)

ヴァイオリンを鷺見三郎、海野義雄氏等の各氏に師事。室内楽を黒沼俊夫、斎藤秀雄氏に師事。第41回日本音楽コンクール2位入賞。1972年、兄、堤剛氏と「二重奏の夕べ」を東京とカナダで開催。1979年のリサイタルでは弘中孝(pf)氏と共演。2003年から深沢亮子氏、安田謙一郎氏と「ピアノとヴァイオリンとチェロの夕べ」を開催、現在に至る。2004年、中野洋子氏(pf)とデュオリサイタル。その他、東京フィル、新日本フィルとのメンデルスゾーンの協奏曲の演奏やその他のオーケストラとの共演も多い。1980~82の2年間、山形交響楽団コンサートマスターを勤め、現在、桐朋学園大学特任教授。日本音楽舞踊会議会員。



中村静香 (ヴァイオリン&ヴィオラ)

桐朋女子高等学校音楽科を経て桐朋学園大学音楽学部卒業。全額スカラシップを受けアスペン音楽祭に参加。文化庁芸術家派遣在外研修員としてジュリアード音楽院に留学。

第52回日本音楽コンクール第一位。及び増沢賞、レウカディア賞、黒柳賞受賞。第29回海外派遣コンクール特別表彰。第3回日本国際音楽コンクール入賞。故・鷺見三郎、海野義雄、小林健次、川崎雅夫、故・ドロシ・ディレイの各氏に師事。

これまでに、NHK交響楽団等、各オーケストラと共演し、各地の音楽祭にも出演している。2003年に大垣音楽祭でヴィオラのソロ・デビューを果し、その後はヴァイオリンとヴィオラ双方で、活躍の場を広げている。2年に1度開く自主企画のリサイタルでは、ヴァイオリン曲とヴィオラ曲を織り交ぜた、意欲的なプログラムを展開している。アート・ユニオンより「シュベールティアード」等のCDをリリース。

現在、桐五重奏団、水戸室内管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー。ソロや室内楽で活躍する他、東京音楽大学准教授、フェリス女学院大学非常勤講師として後進の指導にもあたっている。日本音楽舞踊会議会員。



安田謙一郎 (チェロ)

斎藤秀雄、ガスパール・カサド、ピエール・フルニエに師事。1965年第34回日本音楽コンクール第1位を受賞。翌年、ロストロポーヴィッチ、フルニエに勤められ第3回チャイコフスキーコンクールを受け、第3位入賞。69年ルツェルン音楽祭合奏団のソリストとして日本、ヨーロッパ、アメリカ、カナダの演奏会に同行する。74年香港、サンフランシスコにて小沢征爾と共演。75年より桐朋学園で後進の指導にあたる。水戸室内管弦楽団のメンバーとして活躍。86年に結成した安田弦楽四重奏団、80曲に及ぶハイドンの弦楽四重奏曲全曲演奏、ベートーヴェン年代順室内楽作品の演奏会などのコンサート活動を続け、高い評価を得ている。日本現代音楽協会、日本音楽舞踊会議、日本・ロシア音楽家協会会員。